資料２

（案）

藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書（概要版）

2019年（平成31年）３月

藤　沢　市

（案）

これは、平成30年度に実施した、「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」の概要報告書です。この結果は、平成32年度に策定予定の「ふじさわ男女共同参画プラン」の検討及び今後の男女共同参画を推進していくうえで、貴重な資料として活用させていただきます。

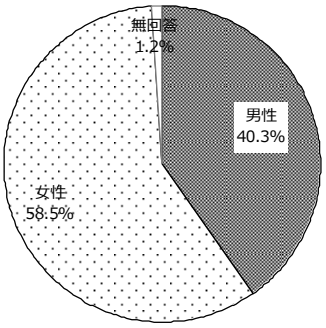
調　査　の　概　要	
調査の設計	◆調査対象　藤沢市在住の満18歳以上の男女 ◆対象者数　3,000名 ◆標本抽出　無作為抽出 ◆調査方法　郵送による配布・回収方式 ◆調査期間　平成30年11月12日（月）～11月30日（金） ◆有効回収数　1,149人 ◆有効回収率　38.3%
調査項目	A　男女の平等について B　家庭生活について C　仕事と家庭の両立について D　女性の活躍推進について E　社会参画について F　性の多様性について G　男女の人権について H　男女共同参画に必要な施策について

※図表中の「ｎ」は回答者数で、グラフの数値はすべて回答者数を基数とした比率（%）です。小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。複数回答できる質問では、合計が 100%を超えます。

基本属性

（１）性別

	基数	構成比
全体	1149	100.0
男性	463	40.3
女性	672	58.5
その他	2	0.2
無回答	12	1.0



（２）年齢

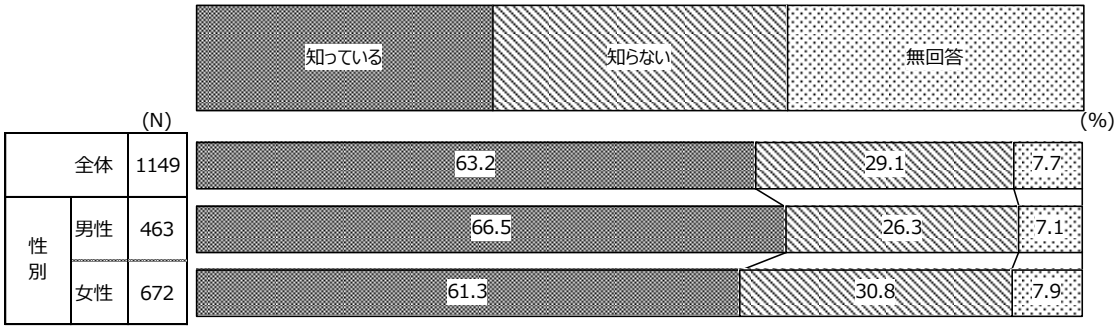
	基数	構成比
全体	1149	100.0
18～19歳	12	1.0
20～24歳	30	2.6
25～29歳	49	4.3
30～34歳	64	5.6
35～39歳	75	6.5
40～44歳	85	7.4
45～49歳	102	8.9
50～54歳	103	9.0
55～59歳	95	8.3
60～64歳	95	8.3
65～69歳	121	10.5
70～74歳	122	10.6
75～79歳	90	7.8
80歳以上	96	8.4
無回答	10	0.9

（案）

A　男女の平等について

男女共同参画（社会）という言葉の認知状況

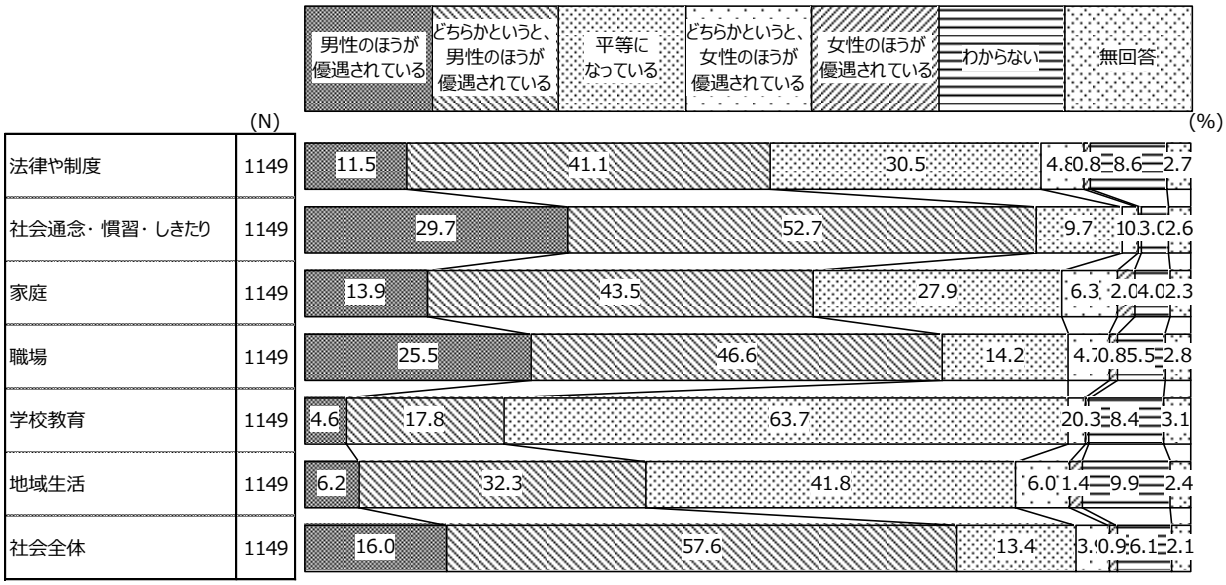
男女共同参画（社会）という言葉を「知っている」は全体で63.2％、男性で66.5％で、女性で61.3％と男性が女性をやや上回っています。



各分野における男女の地位の平等感

各分野における男女の地位の平等感を全体でみると、「平等になっている」は『学校教育』が63.7％で最も高く、これに『地域生活』（41.8％）、『法律や制度』（30.5％）、『家庭』（27.9％）が続いています。

「男性のほうが優遇されている」「どちらかというと、男性のほうが優遇されている」の合計では、『社会通念・慣習・しきたり』で82.4％、『職場』で72.1％、『社会全体』で73.6％と高くなっています。

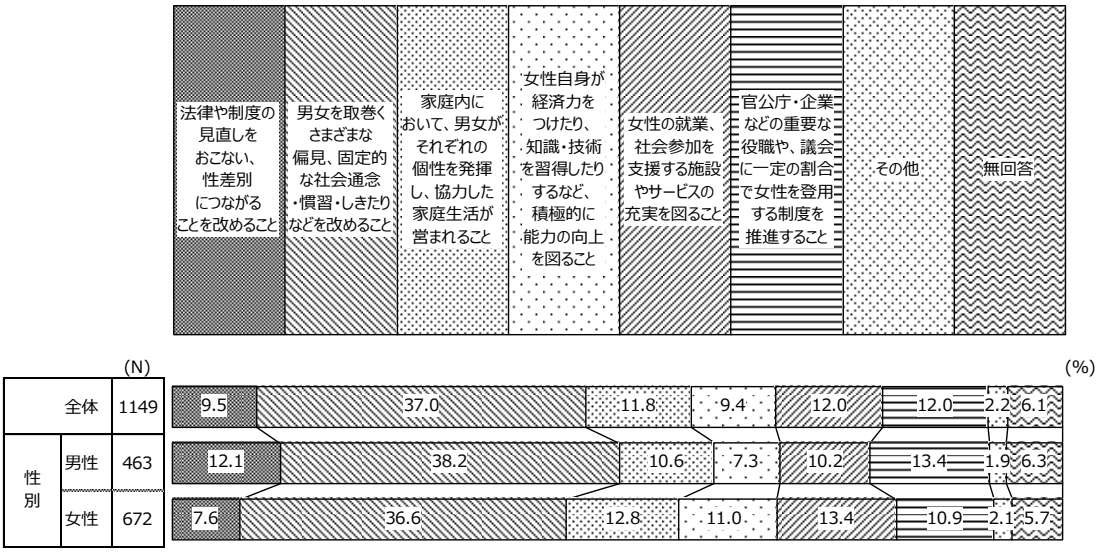


（案）

男女が平等になるためにもっとも重要と思うこと

今後男女があらゆる分野でより平等になるために最も重要と思うことは、全体では、「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が37.0％と特に高く、この他の項目はいずれも１割前後となっています。

性別にみると、男女とも「男女を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念・慣習・しきたりなどを改めること」が最も高く、男性38.2％、女性36.6％となっています。

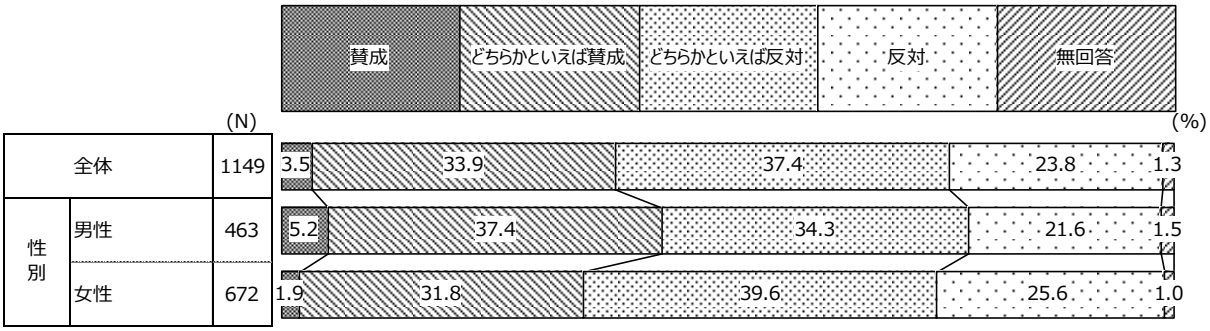


B　家庭生活について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が61.2％で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計（37.4％）を23.8ポイント上回る。

性別にみると、女性は「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計が65.2％とやや高く、男性は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が42.6％とやや高い。

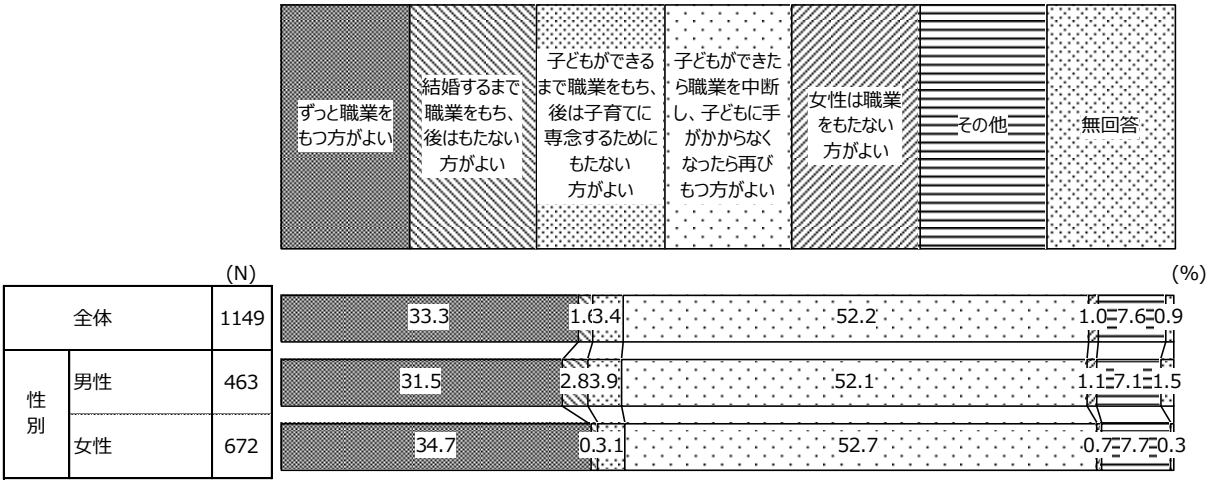


（案）

「女性が職業をもつこと」について最も望ましい形

「女性が職業をもつこと」については、「ずっと職業をもつ方がよい」が33.3%、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」52.2%となっています。

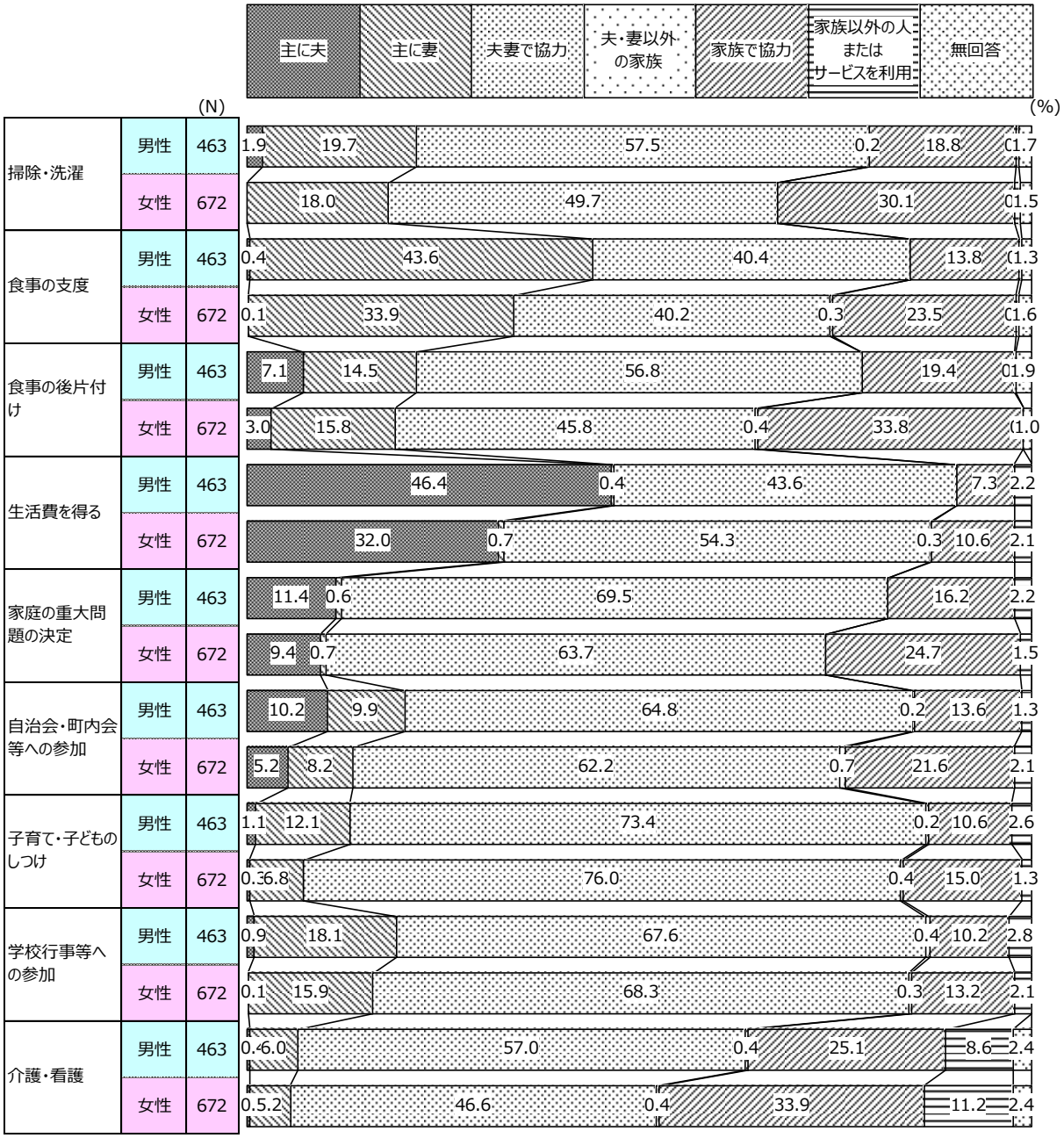
性別にみると、「ずっと職業をもつ方がよい」は男性28.4%、女性30.7%、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」は男性52.1%、女性52.7%と性別で大きな差はみられません。



（案）

家庭における役割分担

家庭における役割分担をみると、「夫婦で協力」は『子育て・子どものしつけ』、『学校行事への参加』、『家庭の重大問題の決定』で７割前後にのぼっています。また、『自治会・町内会等への参加』、『掃除・洗濯』、『介護・看護』、『食事の片付け』でも５～６割を占めており、「夫婦で協力」しあって家庭生活を営んでいる家庭が多いことがうかがえます。そうした中で、『食事の支度』は「主に妻」と「夫婦で協力」が拮抗しており、『生活費を得る』は「主に夫」への偏りがみられます。

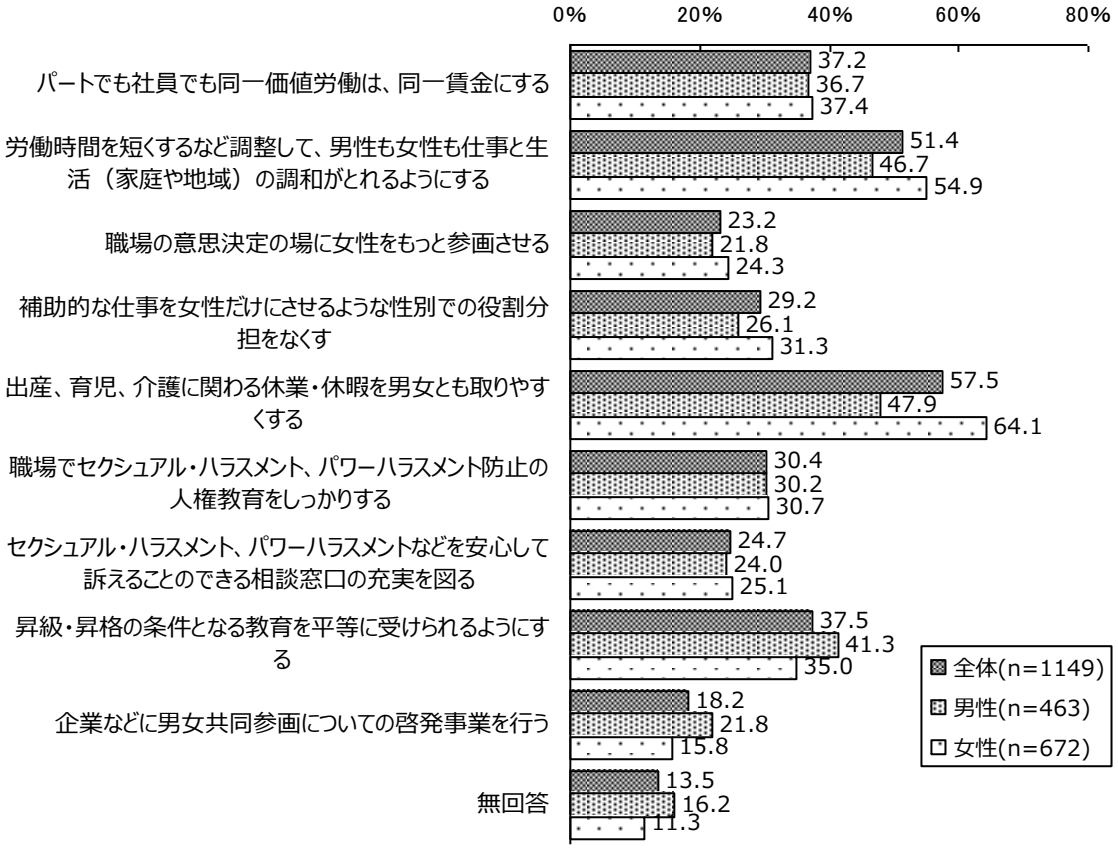


（案）

C　仕事と家庭の両立について

自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なこと

自らの能力を発揮していきいきと働くために必要なことは、「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活（家庭や地域）の調和がとれるようにする」が特に高く、「昇給・昇格の条件となる教育を平等に受けられるようにする」、「パートでも社員でも同一価値労働は、同一賃金にする」が続いています。性別にみると、女性では「出産、育児、介護に関わる休業・休暇を取りやすくする」（64.1%）、「労働時間を短くするなど調整して、男性も女性も仕事と生活の調和がとれるようにする」（54.9%）が男性と比べて高くなっています。

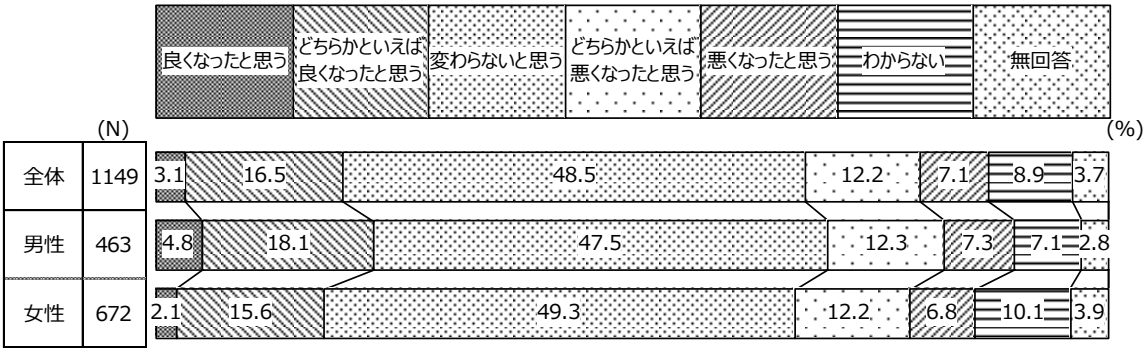


（案）

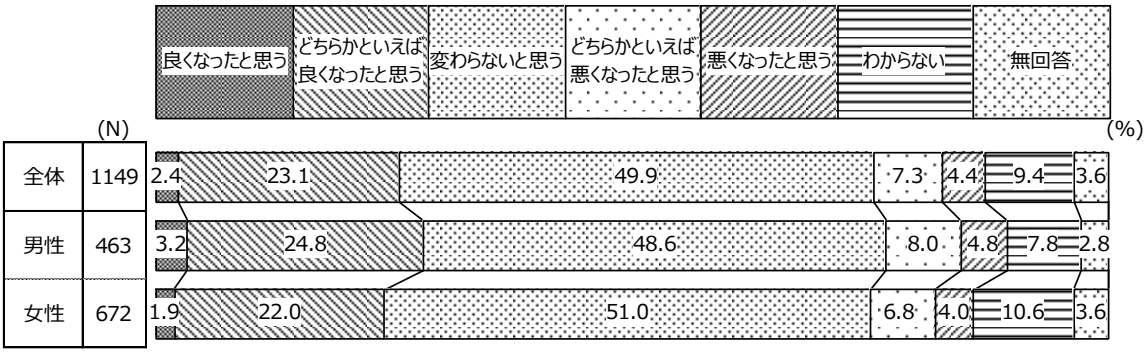
ワーク・ライフ・バランスの５年前との比較

国で掲げる「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」の３項目について５年前と比較した変化を聞いたところ、いずれの項目も「変わらないと思う」が半数程度を占めており、「良くなったと思う」と「どちらかといえば良くなったと思う」の合計は２割前後となっています。性別にみると、いずれの項目も男性の方が女性よりも良くなった（計）が高くなっています。

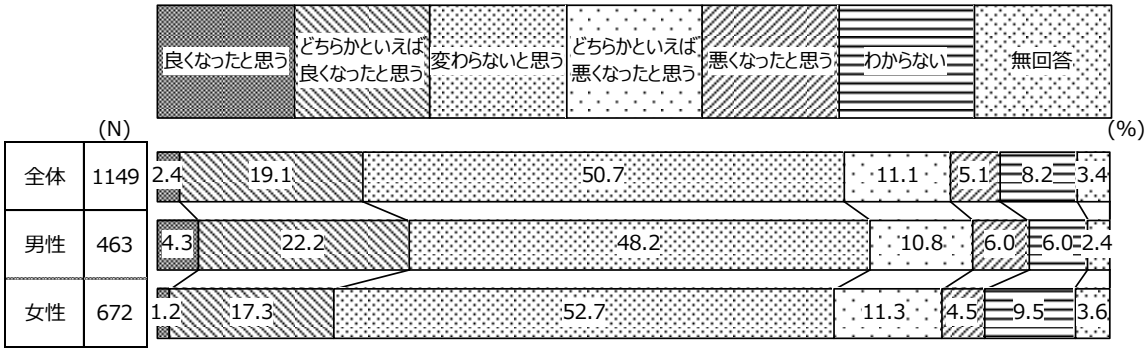
①就労による経済的自立が可能な社会



②健康で豊かな生活のための時間が確保される社会



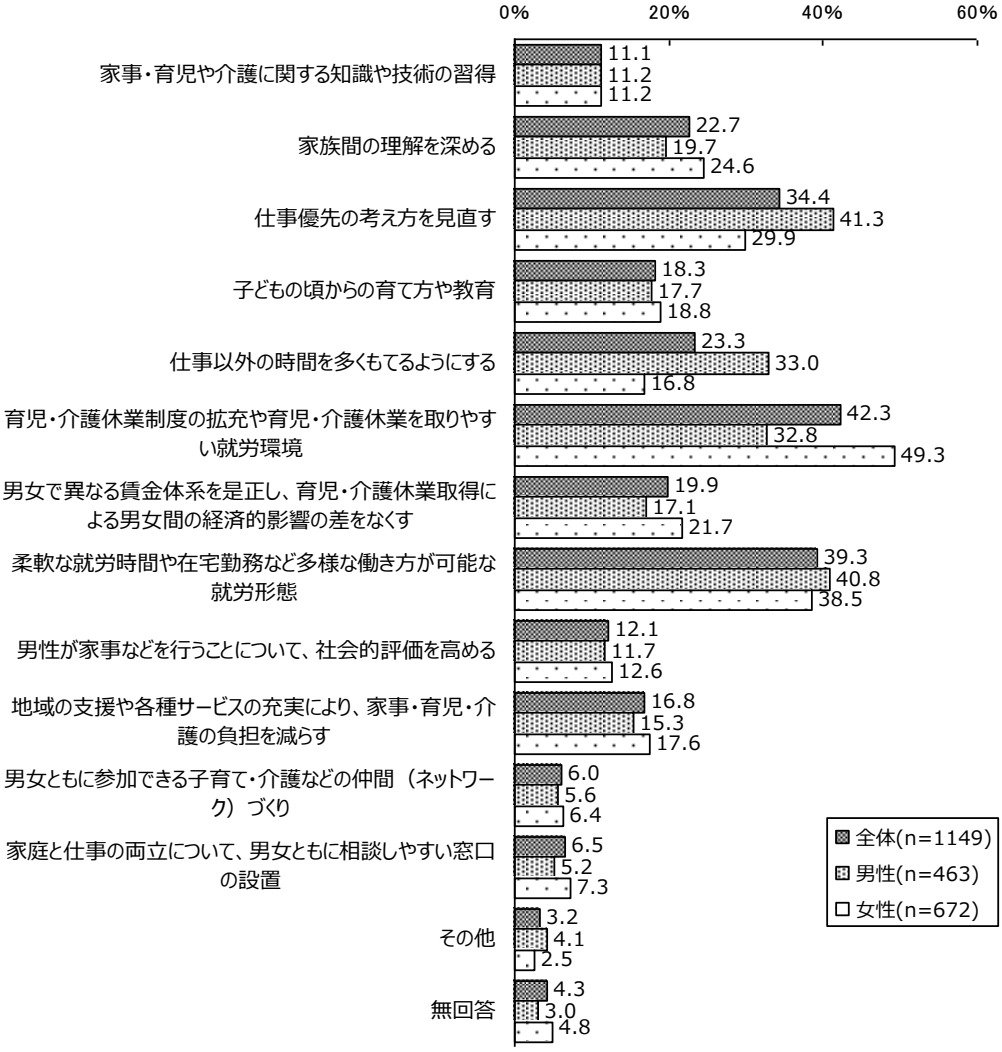
③多様な働き方・生き方が選択できる社会



（案）

ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うこと

ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことは、「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」、「柔軟な就労時間や在宅勤務など多様な働き方が可能な就労形態」が上位を占め、これらに「仕事優先の考え方を見直す」が続いています。性別にみると、男性は「仕事優先の考え方を見直す」（41.3%）、「仕事以外の時間を持てるようにする」（33.3%）が高く、女性は「育児・介護休業制度の拡充や育児・介護休業を取りやすい就労環境」（49.3%）が高くなっています。

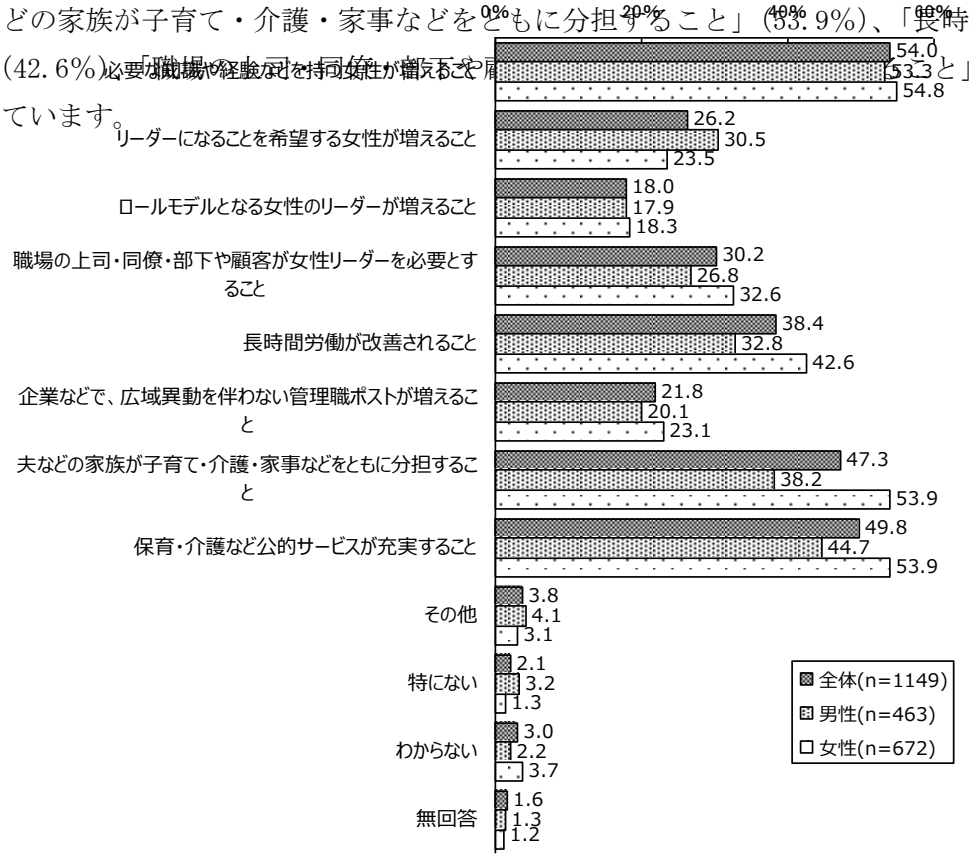


（案）

D　女性の活躍推進について

女性の活躍を進めるために必要なこと

女性の活躍を進めるために必要なことは、「必要な知識や経験などを持つ女性が増えること」、「保育・介護など公的サービスが充実すること」、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」が５割前後で上位となっています。性別にみると、男性は「リーダーになることを希望する女性が増えること」が30.5％とやや高くなっています。女性は「保育・介護など公的サービスが充実すること」(53.9％)、「夫などの家族が子育て・介護・家事などをともに分担すること」（53.9％）、「長時間労働が改善されること」（42.6％）、「職場の上司・同僚・部下や顧客が女性リーダーを必要とすること」（32.6％）などが高くなっています。



E　社会参画について

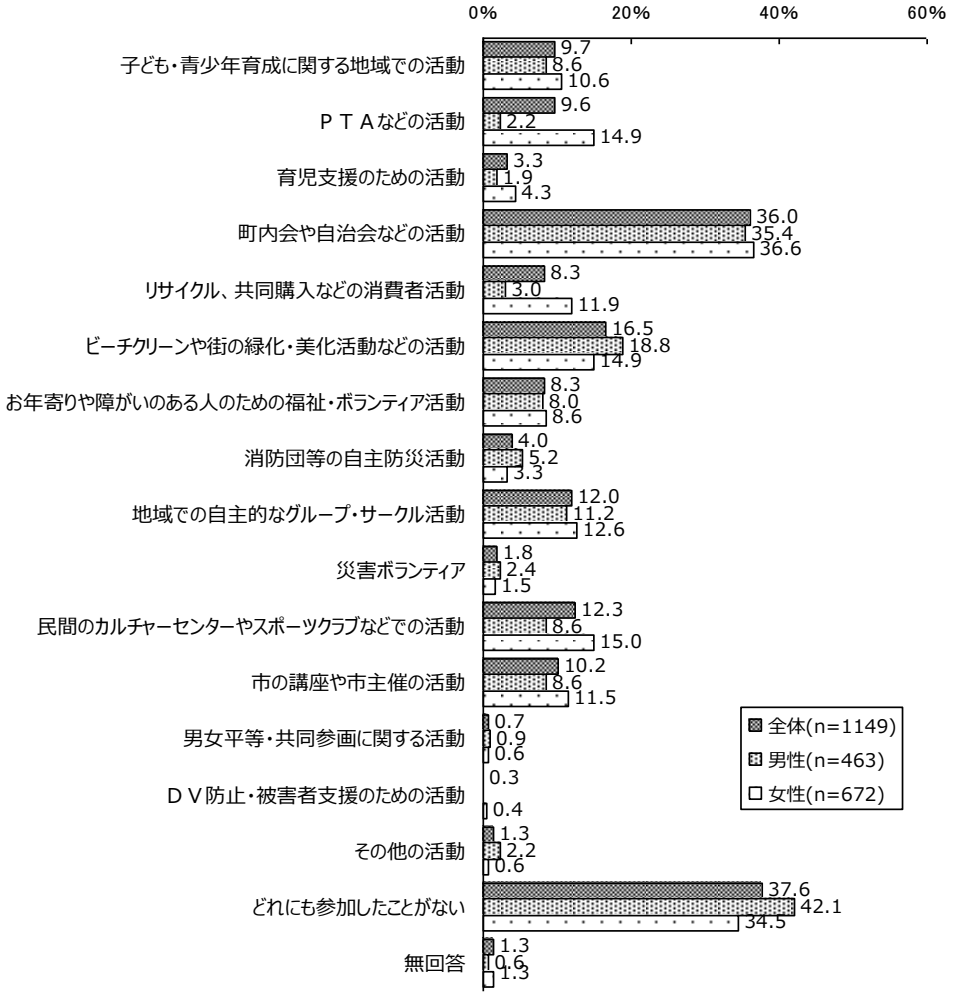
地域活動への参加経験、参加をしていない理由

この１～２年の間の地域活動への参加経験は、「町内会や自治会などの活動」（男性35.4％、女性36.6％）

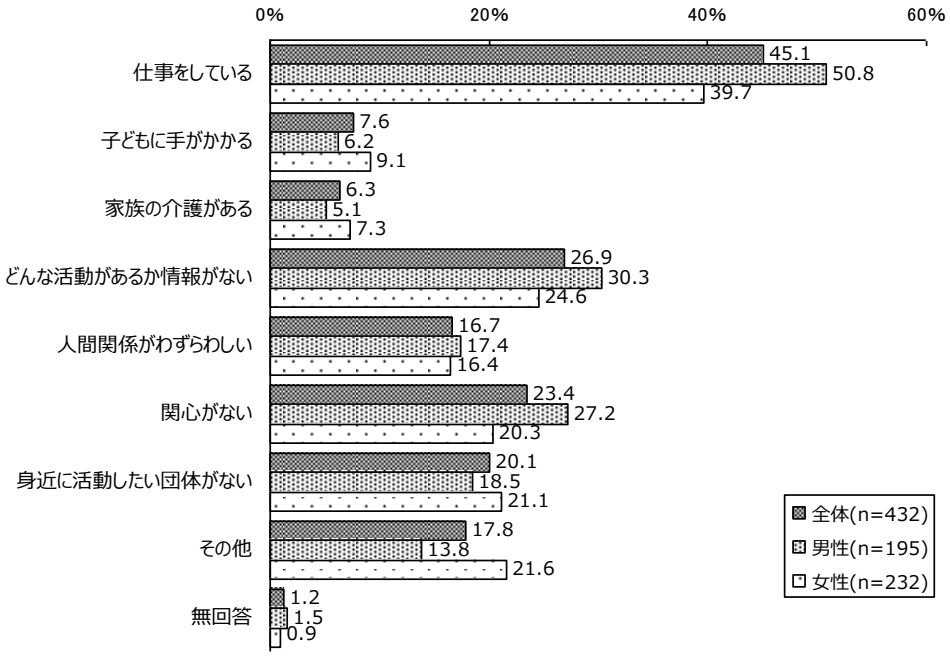
が最も高くなっています。一方、「どれにも参加したことがない」は男性で42.1％、女性で34.5％となっており、参加していない理由は、「仕事をしている」、「どんな活動があるか情報がない」、「関心がない」、「身近に活動したい団体がない」などが高くなっています。

（案）

■ボランティア活動や地域活動への参加状況



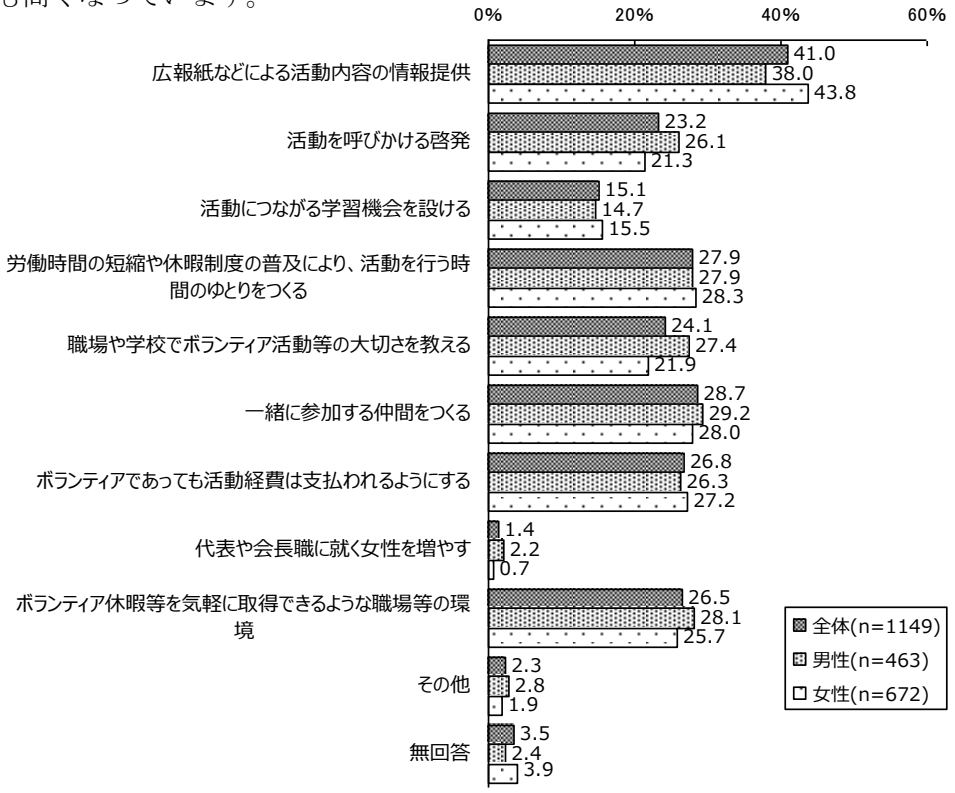
■ボランティア活動や地域活動をしていない理由



（案）

ボランティア活動や地域活動の市民参加率向上のために必要なこと

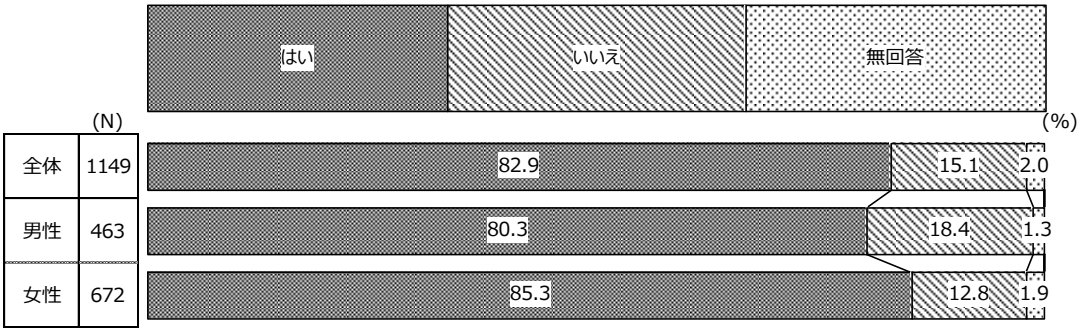
ボランティア活動や地域活動の市民参加率向上のために必要なことは、「広報紙などによる活動内容の情報提供」が最も高く、以下、「一緒に参加する仲間をつくる」、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、活動を行う時間のゆとりをつくる」、「ボランティアであっても活動経費は支払われるようにする」の順となっている。性別にみると、男性は「活動を呼びかける啓発」、「職場や学校でボランティア活動等の大切さを教える」が女性よりもやや高く、女性は「広報紙などによる活動内容の情報提供」が43.8％と男性よりも高くなっています。



F　性の多様性について

セクシュアル・マイノリテイ（ＬＧＢＴ等）という言葉の認知度

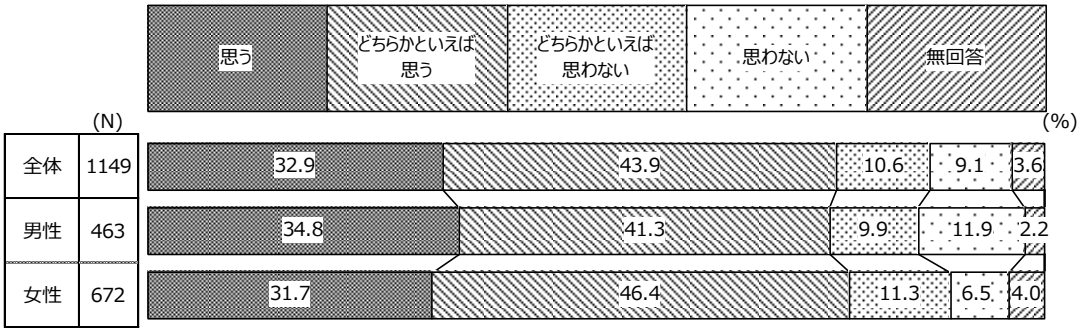
セクシュアル・マイノリテイ（ＬＧＢＴ等）という言葉の認知度は全体で82.9％。女性の認知度は85.3％で、男性（80.3％）をやや上回っています。



（案）

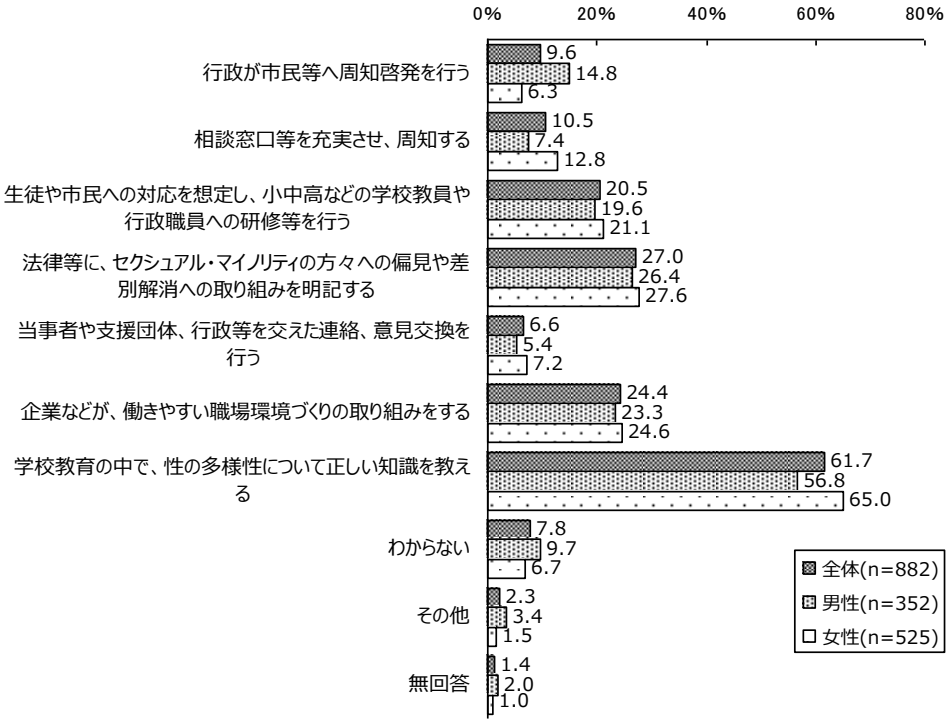
セクシュアル・マイノリティの人にとって生活しづらい社会だと思うか

セクシュアル・マイノリティ（またはＬＧＢＴ等）の人にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと「思う」が32.9％、「どちらかといえば思う」が43.9％で全体の76.8％を占めています。



セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

セクシュアル・マイノリティの人に対する偏見・差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策としては、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が61.7％と特に高く、これに「法律等に、セクシュアル・マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が27.0％で続いています。性別にみると、女性では「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」が65.0％と男性よりもやや高くなっています。



資料２

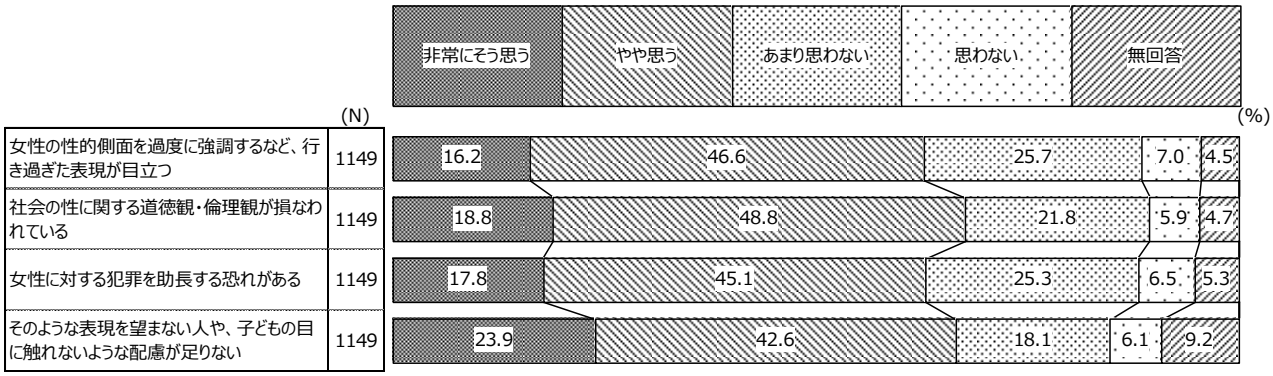
（案）

（案）

Ｇ　男女の人権について

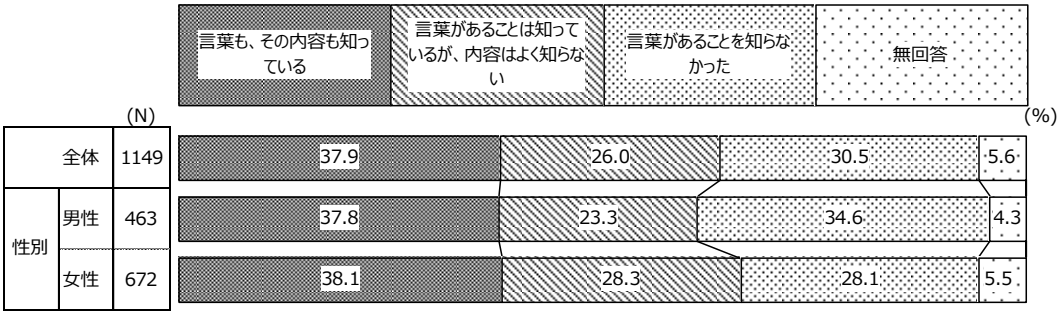
メディアにおける性表現・暴力表現について

メディアにおける性表現・暴力表現については、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（「そう思う計」62.8％）、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（同67.6％）、「女性に対する犯罪を助長する恐れがある」（同62.9％）、「そのような表現を望まない人や、子どもの目に触れないような配慮が足りない」（同66.5％）などいずれもそう思う（計）がそう思わない（計）を大きく上回っています。



「デートＤＶ」という言葉の認知度

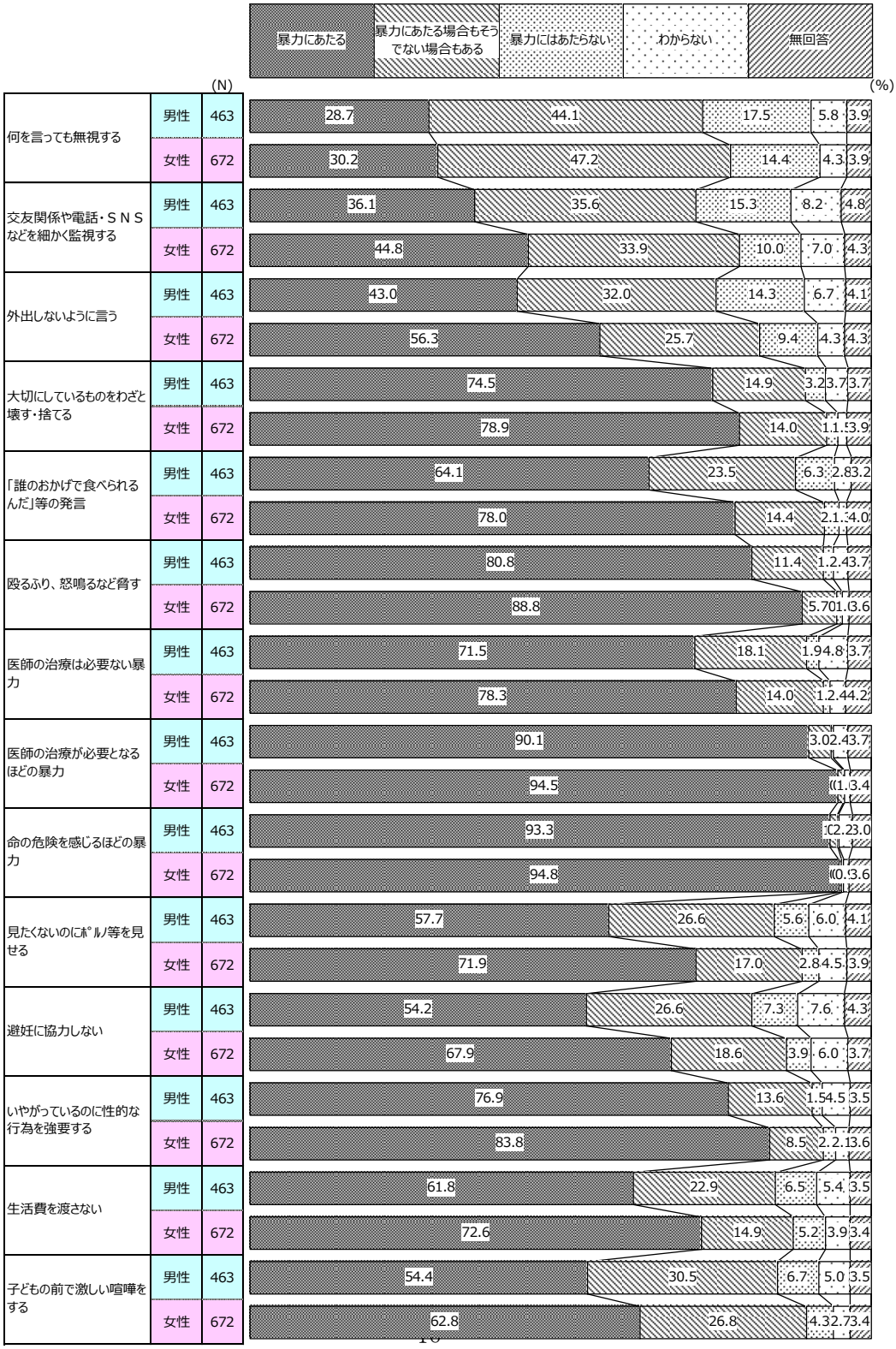
「デートＤＶ（交際相手からの暴力）」という言葉については、「言葉も、その内容も知っている」が全体で37.9％、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が26.0％、「言葉があることを知らなかった」が30.5％となっています。性別にみると、男性では「言葉があることを知らなかった」が34.6％とやや高く、女性では「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が28.3％とやや高くなっています。



（案）

夫婦間で暴力だと思われることについて

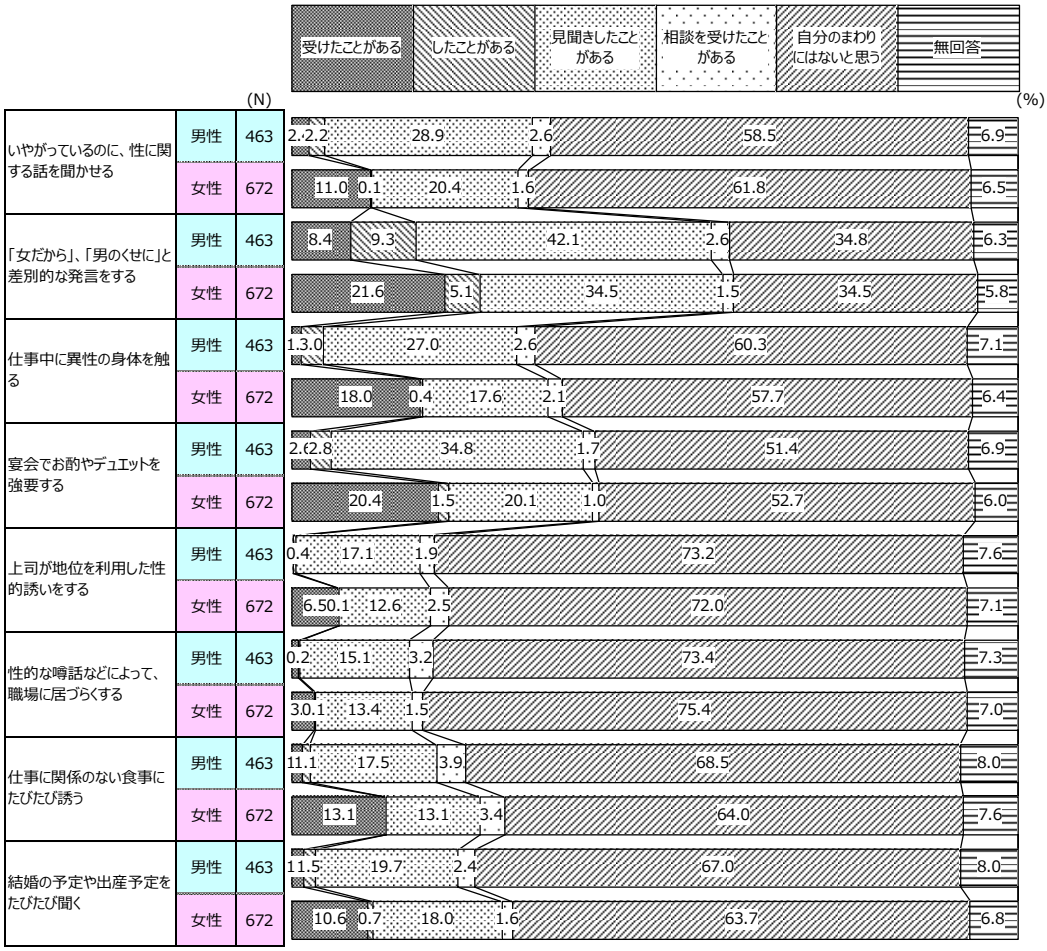
夫婦間で暴力だと思われることについては、身体的暴力に関して「暴力にあたる」という意識が高く、『命の危険を感じるほどの暴力』、『医師の治療が必要となるほどの暴力』では「暴力にあたる」が男女ともに９割を超えています。一方、「暴力にはあたらない」は『何を言っても無視する』、『交友関係や電話・ＳＮＳなどを細かく監視する』、『外出しないように言う』などの精神的暴力で高くなっています。『外出しないように言う』や『「誰のせいで食べられるんだ」等の発言』、性的暴力の『見たくないのにポルノ等を見せる』『避妊に協力しない』、経済的暴力の『生活費を渡さない』では、女性の方が男性よりも「暴力にあたる」が多く、男女で意識の差が表れています。



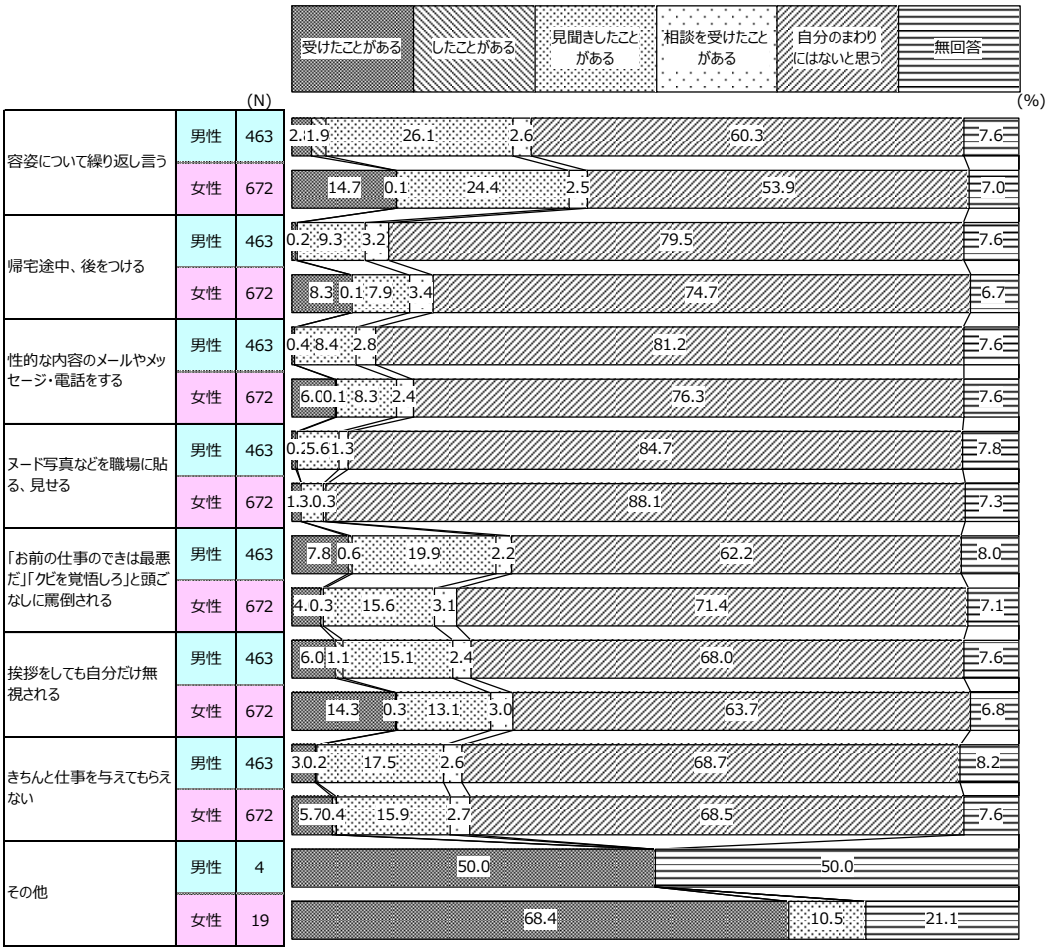
（案）

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験

セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの経験については、いずれも「自分のまわりにはないと思う」が多くなっていますが、「受けたことがある」は、『「女だから」、「男のくせに」と差別的な発言をする』（男性8.4％、女性21.6％）、『宴会でお酌やデュエットを強要する』（男性2.6％、女性20.4％）、『仕事中に異性の身体を触る』（男性1.3％、18.0％）などが挙げられています。



（案）

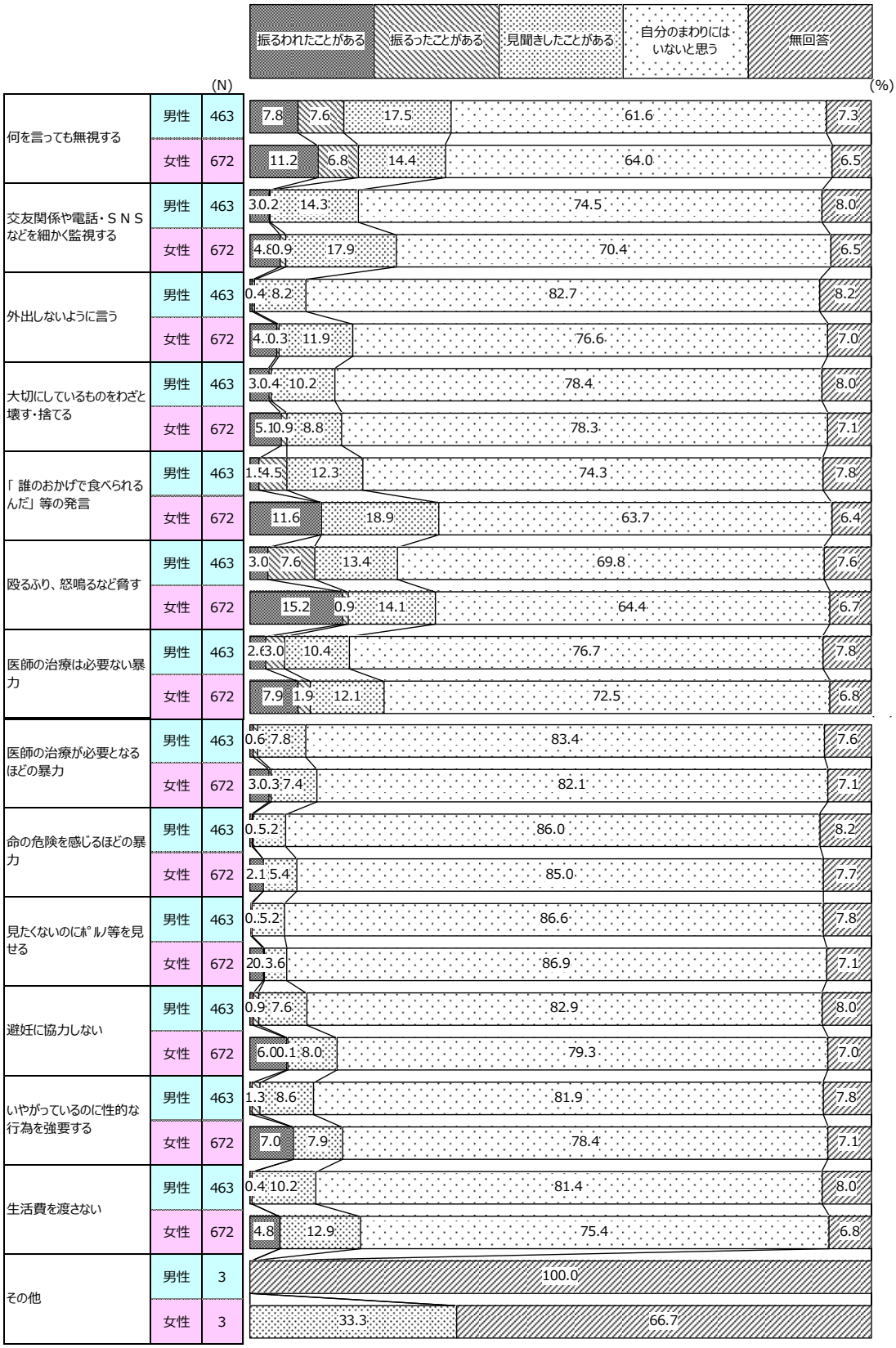


配偶者・恋人間での暴力の経験

配偶者・恋人間で暴力を振るった、または振るわれた経験については、いずれも「自分のまわりにはないと思う」が多くなっていますが、『殴るふり、怒鳴るなど脅す』、『「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言』、『何を言っても無視する』で女性の被害経験が１割を超えています。一方、「ふるったことがある」は『殴るふり、怒鳴るなど脅す』が男性で7.6%、『何を言っても無視する』が男性で7.6%、女性で6.8%と比較的多くなっています。

資料２

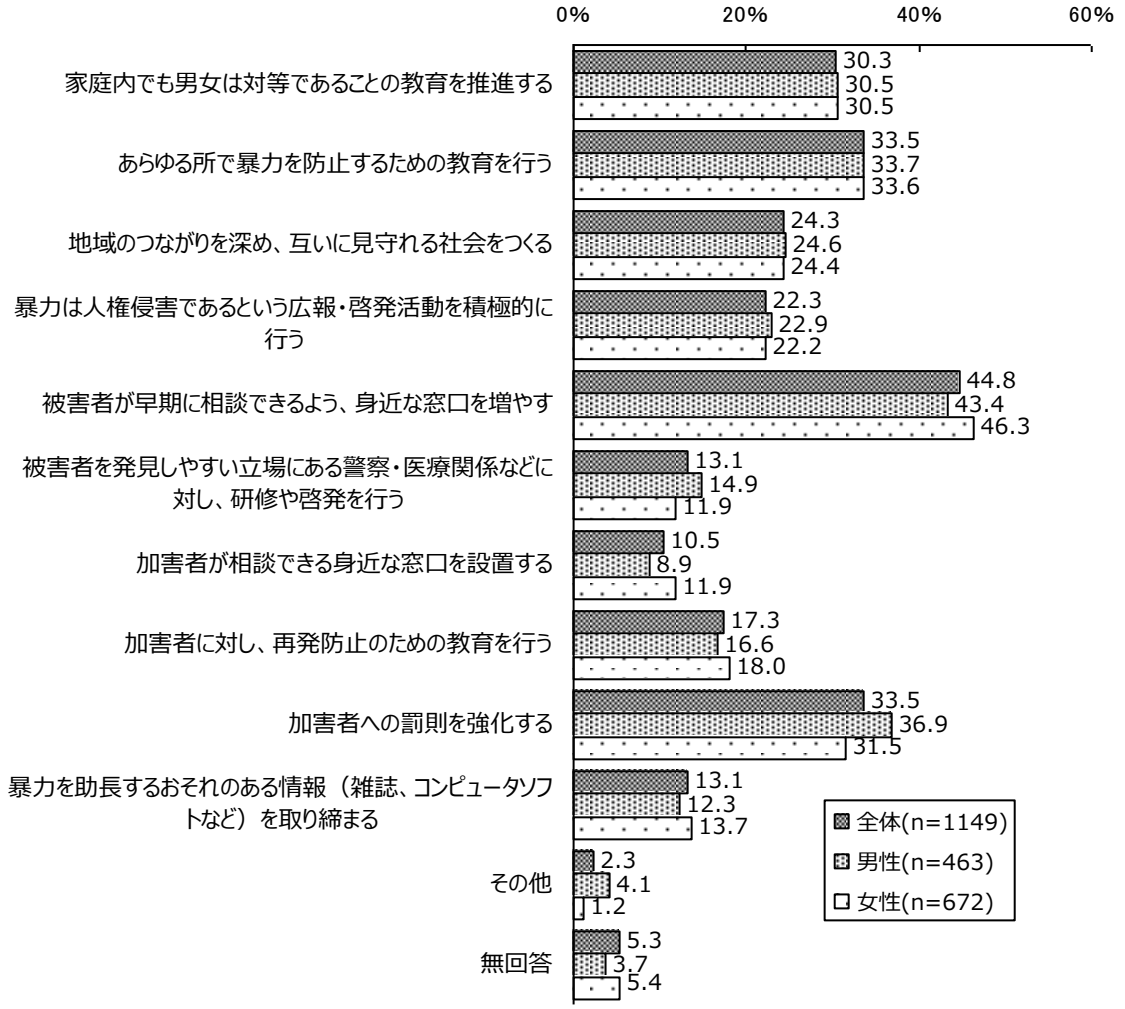
（案）


振るわれたことがある
振るったことがある
見聞きしたことがある
自分のまわりにはいないと思う
無回答
(N)
(%)
何を言っても無視する
男性 463 7.8 7.6 17.5 61.6 7.3
女性 672 11.2 6.8 14.4 64.0 6.5
交友関係や電話・ＳＮＳなどを細かく監視する
男性 463 3.0 2.2 14.3 74.5 8.0
女性 672 4.8 0.9 17.9 70.4 6.5
外出しないように言う
男性 463 0.4 8.2 82.7 8.2
女性 672 4.0 .3 11.9 76.6 7.0
大切にしているものをわざと壊す・捨てる
男性 463 3.0 .4 10.2 78.4 8.0
女性 672 5.1 0.9 8.8 78.3 7.1
「誰のおかげで食べられるんだ」等の発言
男性 463 1.4 .5 12.3 74.3 7.8
女性 672 11.6 18.9 63.7 6.4
殴るふり、怒鳴るなど脅す
男性 463 3.0 7.6 13.4 69.8 7.6
女性 672 15.2 0.9 14.1 64.4 6.7
医師の治療は必要ない暴力
男性 463 2.6 3.0 10.4 76.7 7.8
女性 672 7.9 1.9 12.1 72.5 6.8
医師の治療が必要となるほどの暴力
男性 463 0.6 7.8 83.4 7.6
女性 672 3.0 .3 7.4 82.1 7.1
命の危険を感じるほどの暴力
男性 463 0.5 .2 86.0 8.2
女性 672 2.1 5.4 85.0 7.7
見たくないのにポルノ等を見せる
男性 463 0.5 .2 86.6 7.8
女性 672 20.3 .6 86.9 7.1
避妊に協力しない
男性 463 0.9 7.6 82.9 8.0
女性 672 6.0 0.1 8.0 79.3 7.0
いやがっているのに性的な行為を強要する
男性 463 1.3 8.6 81.9 7.8
女性 672 7.0 7.9 78.4 7.1
生活費を渡さない
男性 463 0.4 10.2 81.4 8.0
女性 672 4.8 12.9 75.4 6.8
その他
男性 3 100.0
女性 3 33.3 66.7

（案）

ＤＶ防止に重要な施策について

ＤＶを防ぐにために重要だと思われることは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が４割台で最も高く、これに「あらゆる所で暴力を防止するための教育を行う」「加害者への罰則を強化する」、「家庭内でも男女は平等であることを推進する」が３割台で続いており、上位の項目に性別による大きな違いはみられません。



資料２

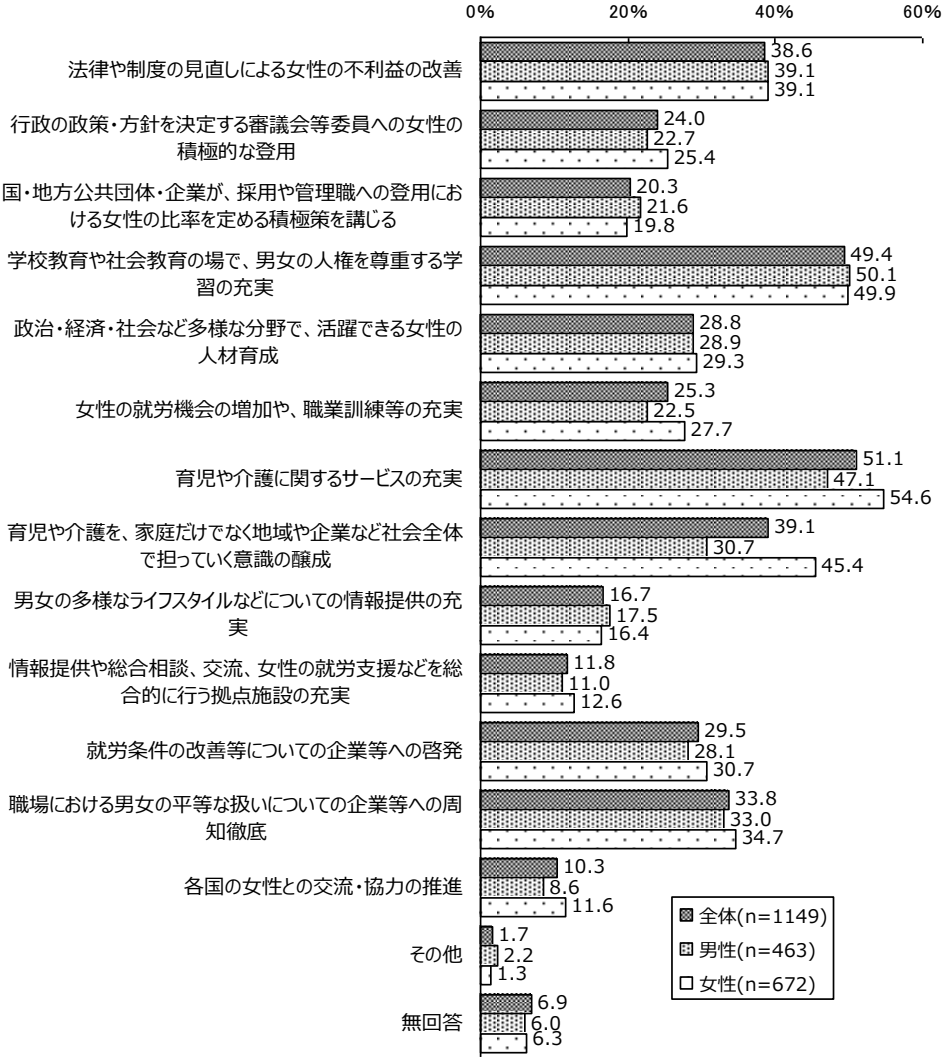
（案）

（案）

Ｈ　男女共同参画に必要な施策について

男女共同参画社会を実現していくために行政に望むこと

男女共同参画社会を実現していくために、行政に対して望むことは、「育児や介護に関するサービスの充実」、「学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重する学習の充実」が５割前後で上位を占め、これらに「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」、「法律や制度の見直しによる女性の不利益の改善」が４割弱で続いています。性別にみると、女性では「育児や介護に関するサービスの充実」が54.6％、「育児や介護を、家庭だけでなく地域や企業など社会全体で担っていく意識の醸成」が45.4％と高くなっています。



藤沢市　企画政策部　人権男女共同平和課
〒251－8601　藤沢市朝日町１番地の１
電　話　0466-25－1111〈代表〉